

進んで学び，高め合う児童の育成

～自分の考えをもち，相手にわかるように伝える力の育成を目指して～

I 研究の内容

1. 研究仮説

教科・道徳・特別活動および総合的な学習の時間において，自分の考えをもち，相手にわかるように伝える力を育てるための取り組みを行うことによって，思考力や判断力，自己表現力や他者理解力が備わり，進んで学び，互いに高め合う児童の育成に近づくことができるであろう。

2. 研究の具体的内容

- (1) どんな実践が効果的なのか，理論や先行研究を学び，研究を進める。
 - ・講師を招聘し，理論や先行研究の様子などを学ぶ。
 - ・先進校の実践や文献，参加した研修会などの伝達をする学習会を行う。
- (2) 授業実践・授業研究へ取り組む。
 - ・授業研究はブロック研究を基盤にして進める。ブロックより1人が全体に検証授業を提案し，全体会で協議を行う。指導・助言者を招いて，授業と研究内容について指導・助言をしてもらう。
 - ・検証授業をする学年以外も一人一実践として授業公開を行う。なるべく全員が参観し相互の学習の機会とする。
- (3) 聴く・話す力，話し合う力，読む力の向上に向けた継続した取り組みを行う。
 - ・聴き方，話し方における基本を明確にし，「聴く話すためのチェックポイント」を掲示する。
 - ・学び方アクションシートを活用し，指導の改善（7月・1月）に生かす。
 - ・スピーチ広場を実施し，聴く話す機会を設ける。
 - ・ふれあい集会の際，各学年一度，音読・朗読・群読の発表をする。
 - ・声に出して読んでほしい名文を校内に掲示する。
 - ・家庭への啓発を行い，親子読書に取り組む。
- (4) その他
 - ・Q-Uについて学習し，調査・分析を児童理解に役立てる。

II 成果と課題

(1) 関わって

- ・7月に講師として来校いただいた峡東教育事務所の一之宮英文主幹指導主事に，本校の校内研究に関わって，参考になるお話や資料を提供していただいた。

- ・ 検証授業の指導助言者として来校いただいた，前出の一之宮先生と県義務教育課の嶋崎修指導主事から，今後の校内研究に関わって，貴重なご意見をいただいた。

(2) に関わって

- ・ どの実践も，本校の校内研究（聴く話す力，自分の考えを伝える力）にかかわる日頃の取り組みや成果が表れた授業であった。
- ・ 授業を実施，観察することによって見えてくることは多い。参観した授業に対し，意見や感想を交流することはとても参考になり，学び合うよい機会だったと思う。
- ・ 検証授業は，授業者だけでなくブロック全員で取り組むことができ，とても勉強になった。
- ・ 低学年と高学年の2部会に分けたことで，検証授業のプレ授業が実施できてよかった。子どもたちの反応がある程度つかめることにより，効果的な授業の流れを再考することができた。

(3) に関わって

- ・ スピーチ広場，群読など，クラスの枠を超えて様々な取り組みを実施できたことは，子どもたちの刺激にもなり，聴く話す力をつけるとてもよい機会である。
- ・ 先生方の熱心な指導で，子どもたちの聴く話す力は確実に高まっている。
- ・ 集会での聴き方も全体的によい。
- ・ アクションシートを用いて，話すこと・聴くことに関わるクラスの目標を設定し，チェックすることにより，成果を確認できたり，取り組みの改善にも役立てられた。

(4) に関わって

- ・ Q-Uの分析を学級指導や個の見取りに生かすことができた。
- ・ Q-Uの結果を受けて，どのような学級づくりをしたらよいか，みんなで話し合える時間が十分に確保できると有意義だと思う。

III 成果物

(1) 検証授業指導案（ワークシート等も含む）

- 3年 学級活動「発見！自分と友だち，いろいろな考え方がある」 八巻恵子
- 4年 国語科 「一つの花」 志村克人

(2) 公開実践授業指導案（ワークシート等も含む）

- 1年 国語科 「しらせたいな，見せたいな」 平塚すみり
- 2年 国語科 「見たこと，かんじたこと」 土屋尚子
- 3年 理科 「豆電球をつけよう」 岡安男
- 5年 学級活動「がんばったで賞」 山田勝博
- 6年 算数科 「立体のかさの表し方を考えよう」 奥山美恵

(3) その他（主なもの）

- 学習会や検証授業に招聘した講師の方々（一之宮英文先生・嶋崎修先生）にご提供いただいた，本校校内研究に関わる資料
- 各学年の聴く・話すチェックポイント（掲示用），アクションシート（チェック用）
(研究主任 志村克人)